

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (13 — 10)

団体名	(特非)地域チャレンジセンター・プラス	代表者名	(職名) (氏名) 代表 大島 一晃
事業名	多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援		

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」 「毎○曜日」等で 記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
9/12・9/26・ 9/10・9/24・ 11/28・ 11/12・12/26	自然塾蔵ハウス	178人 (23人)	西宮市北部や三田市のひとり親や経済的に困窮状態にある世帯、また、子育てをする中で孤独感のある世帯を中心に相談会と必要に応じて食料の支援を行った。 西宮北部においては経済的に課題を抱えている世帯もそれなりの数があったが、多くは子育てや今後の生活に漠然とした不安を抱えている子育て世帯が多かった。
10月30日	自然塾蔵ハウス	41人 (3人)	地域の学習支援等で活躍している子育て中の母親が中心となり、様々な課題を抱えている子育て世帯を対象に、日常生活や普段の遊びの中でも子どもたちは英語を楽しく知る機会を多くあることを伝える体験の場を実施した。経済的にしんどいから習い事が出来ないということではなく、工夫の仕方で親子で楽しくコミュニケーションを取りながら、学び楽しさはあることを伝えた。
11月2日	さんだ市民センター	16人 (2人)	三田市、西宮市北部、神戸市北区のシングルマザーの交流会を行った。天候が悪く、参加者が若干少なかったのと、帰路の不安もあったので、急遽、短縮した時間で実施した。 普段、忙しくて自分の気持ちを吐き出す機会がない親も、同じ気持ちを持つ仲間がいることで、少し気持ちも和らいだという声も聞かれた。
12月15日	リボンズフェスタ	95人 (12人)	神戸市北神区、西宮北部、三田市の様々な子どもの居場所や支援に携わる支援者の人同士の交流会と地域の子育て世帯の出会いの場として、それぞれの居場所ごとの体験ブースを用意し、子育て世帯や支援者も一緒に体験し合ったりと、支援者も当事者も入り混じりながらの交流の場を持った。 支援者同士が一堂に会する機会というのはあまりないので、皆さん、体験しながら情報交換や連絡先の交換等もしていたので、今後の団体同士の協働にもつながる場となった。利用した会場も、地域のデンタルクリニックサロンの広い待合室（総勢100人入場可能）を無償で貸していただき、地域の企業、支援団体、子育て世帯が一体となる場となった。
2月26日	なりたい自分 になろう！	9人 (2人)	昨年3月にアメリカからやってきたカメラマン夫婦が、地域や地域の子育て世帯の方との交流を深めたいという思いがあるということから、この企画を実施した。子育てに追われ、なかなか自分のライフ設計が思うように描けない母親に、自分の魅力を気付いてもらうことで、あと一步を踏み出すサポートできればと思い実施した。参加者も自身の内面と外面を客観的に見て知ること、普段、疲れた表情をしている母親たちも、満面の笑みを浮かべて生き生きとしていた。
9/10・11/21・ 11/29・1/20	居場所の実態 調査	4人 (5人)	地域の子育て支援を行う団体や、子育て支援に関心のある企業を訪問したりして、取材を行った。 今年度は、企業（歯医者、カメラスタジオ）にも取材に行き、経営者も同じ子育て中ということもあり、地域で同じ子育てをする仲間として、一緒に子育て支援や地域づくりに関心を持っている様子であった。
12月～2月	地域の資源台 帳（マップづ くり）	(10人)	地域の居場所だけではなく、地域で子育てをする中でのハザードマップも意識して作成。

< 効果と成果 >

事業を実施する中で、ひとり親世帯、外国にルーツを持つ世帯等、様々な子育て世帯と出会い、その方たちの抱える課題と一緒に考える場の体験交流会を実施することで、同じ課題や似た課題を持つ人が集まり、またそこで新たな地域の課題が上りと、事業を重ねていくことに様々な課題が見え、それをまた事業として当事者と一緒にやる、という連鎖反応的な形で本事業は実施できた。

行政区によって子育て支援の差が大きいという現実を、ただ嘆いているだけの当事者が、事業に参加して支援者や同じ当事者と関わる中で、共に考え行動していかないと社会は変わらないということも伝わっていった。そのような当事者が、新たな支援者となり、体験交流会の講師となった。今後の地域の課題を先頭になって考えていく姿は頼もしくもあった。

また、今年度、地域の実態調査を行う中で、企業にも調査を行うことで、企業側も地域と共にという思いもあり、実際に協働で事業も行えた。事業もある程度、地域に浸透したので今年度は参加者もかなり増え、当事者や様々な支援者にも事業が伝わったのは大きな成果の一つだと感じている。

< 今後の展望 >

この3年間、様々な事業を実施し、行政や社協等にも働きかけを行ったが、地域によっては『成果が出たら考える』というニュアンスのような回答もあった。地域の支援団体とのつながりは構築できても、やはりそこに公的な組織も加わってこそ、ネットワークの構築と言えると思う。

今後は、もっと官民連携の地域のネットワークづくりを考えていかないと、現状で留まってしまうことが見えている。そのあたりを、しっかりと考えていきたいと思う。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動NPO事業助成金	4 5 7 , 0 0 0
自己資金等	5 8 0
合 計	4 5 7 , 5 8 0

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	謝礼金	1 7 8 , 0 0 0	1 7 8 , 0 0 0
	事務人件費	2 1 0 , 0 0 0	2 0 9 , 7 9 3
	消耗品費	3 6 , 6 2 0	3 6 , 6 2 0
	その他(旅費交通費等)	3 2 , 9 6 0	3 2 , 5 8 7
	小 計	4 5 7 , 5 8 0	4 5 7 , 0 0 0
間接経費(一般管理費)		0	0
合 計		4 5 7 , 5 8 0	4 5 7 , 0 0 0